

災害対応eラーニングについて

1. 災害対応eラーニングの概要
2. 災害対応eラーニングの視聴状況
3. 活用好事例の調査及び方法
4. 公開済みテーマの改善、新規コンテンツの作成

1. 災害対応eラーニングの概要

■ eラーニングの目的

災害時に活動する応援職員等が、現地で従事する業務について標準化された業務手順(Standard Operating Procedure)を短時間で学ぶことにより、地方公共団体の災害対応力の向上を図る。

■ 対象テーマ

防災基本計画を踏まえ、災害時に多くの応援職員等が即戦力として活躍することが期待される下記の業務を当面のテーマとする。

- ・ 避難所開設・運営 (済)
- ・ 避難情報の判断・伝達(済)
- ・ 災害廃棄物処理(済)
- ・ 住家被害認定調査・罹災証明書交付 (済)
- ・ 要配慮者への支援
- ・ 防疫
- ・ 遺体処理

※ 現在公開準備中

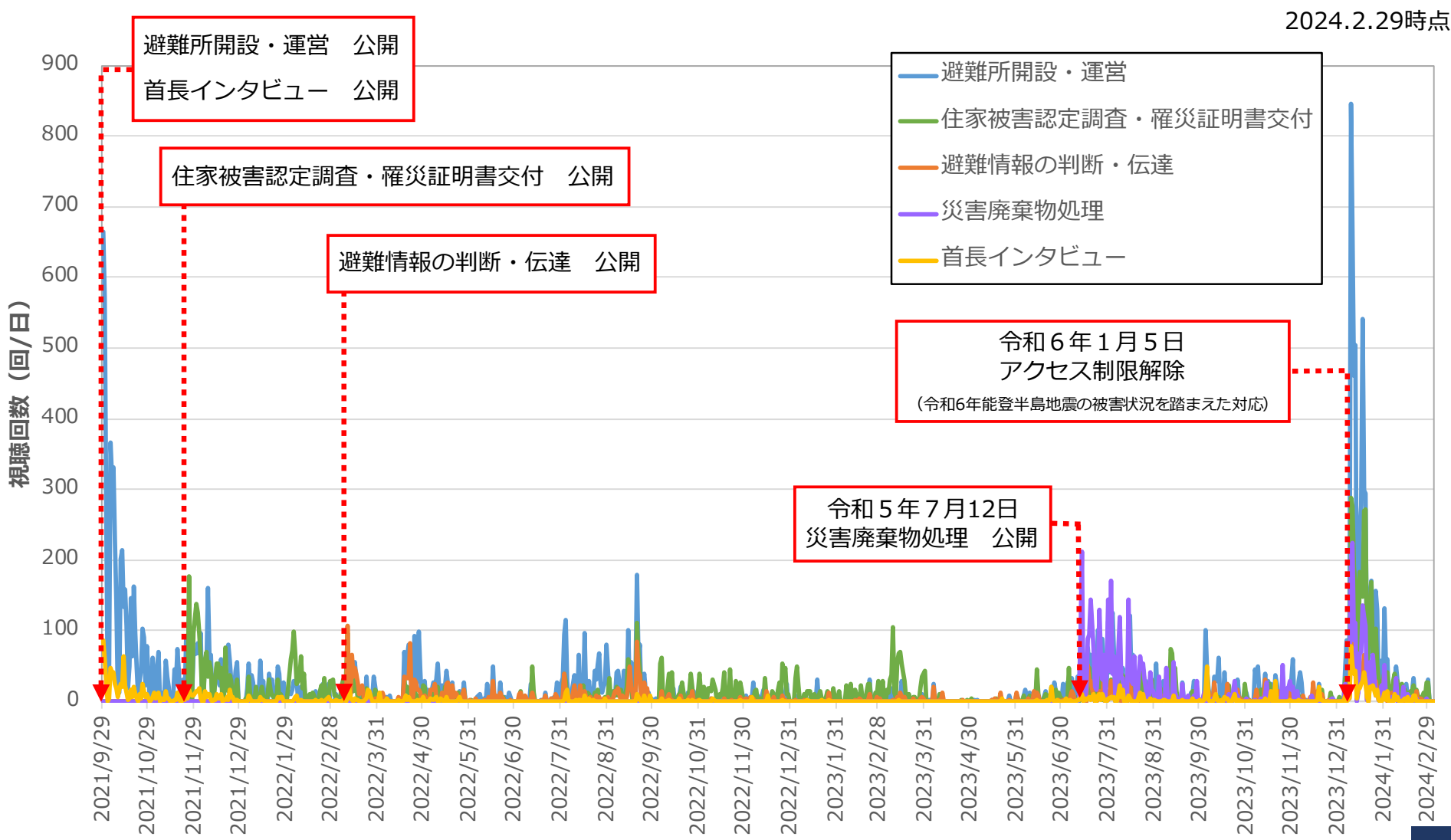
●災害対応eラーニングの位置づけについて

- 第4回検討会にて下表のとおり災害対応eラーニングを位置づけた。
- 災害対応eラーニングの目的である「**災害時に活動する応援職員等が短時間で学習できる**」ことを念頭に、他研修との位置づけ違いも踏まえて新規コンテンツの対象等の検討を進める。

研修	対象者	身につく能力(役割)	人的ネットワーク	効果	
有明の丘研修	防災基礎コース 災害担当に配属された職員、 新任職員 <small>【対象組織】 国、都道府県、市区町村、指定公共機関</small>	防災活動の前提となる基礎的な知識 <small>例) ハザード、防災行政、法体系、 防災計画、警報避難、被災者支援 等</small>	-	防災基礎能力のある職員を増やす <small>すそ野を広くする</small>	
	5 災害対策コース 個別課題の対応に 専門的に従事する職員 <small>【対象組織】 国、都道府県、市区町村、指定公共機関</small>	職位に応じた専門的な災害対応力 ・業務の理解(知識・技能) ・実施手順、態度の習得 (マネジメント/ホレション)	<ul style="list-style-type: none"> 同様の職位または専門分野の参加者同士での人的ネットワークを形成できる 共通の課題や問題意識に対して異なる立場で意見を共有できる 	一人一人の能力を高める <small>頂を高くする</small> リーダーの能力を高める <small>主峰を据える</small> <small>(個人間の人的ネットワークにより)</small> 災害対応時に助言等の支援が得られる	
	4 組織運営コース 本部運営の中核的 役割を担う職員 <small>【対象組織】 国、都道府県、市区町村、指定公共機関</small>			地域における課題と対応 ・地域に根差した課題の理解と対応の習得 (知識・技能) 地域内の組織間の協力・連携した対応力 ・地域内で災害対応にあたる組織の役割・業務等の理解(知識) ・組織間の連携・調整方法の習得(技能) ・災害対応経験者の経験談による災害対応時の態度の習得	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に地域で災害対応にあたる組織として、組織間の協力・連携体制の確立・強化できる
地域研修	災害時に地域で災害対応にあたる職員 <small>【対象組織】 国の出先機関、都道府県、市区町村、指定公共機関、指定地方公共機関、NPO、民間企業 等 ※災害対応時に地域内で協力・連携が必要と判断した組織</small>	災害時に活動する応援職員等 <small>【対象組織】 都道府県、市区町村</small>	現地で従事する業務について標準化された業務手順 ・業務手順の理解(知識・技能)	-	現地で従事する業務について標準化された業務手順を短時間で学ぶことにより、地方公共団体の災害対応力の向上を図る

2. 災害対応eラーニングの視聴状況

総視聴数 44,849回	①避難所開設・運営 22,313回	②住家被害認定調査・罹災証明書交付 11,325回
	③避難情報の判断・伝達 3,948回	④災害廃棄物処理 4,691回 首長インタビュー 2,572回



●令和6年能登半島地震への対応

- ・令和6年1月1日の能登半島地震を受け、1月5日からアカウントID・パスワードによる制約を解除し、各都道府県の防災担当に対して事務連絡を発出。
- ・1月1日～1月12日のコンテンツ視聴状況は以下のとおり。

(参考) 1月1日～1月12日の日ごとの視聴数

日付	避難所開設・運営	住家被害認定調査 ・罹災証明書交付	避難情報の判断・ 伝達	災害廃棄物処理	首長インタビュー
1/01 (月・祝)	5	7	0	0	1
1/02 (火・祝)	1	0	0	0	0
1/03 (水・祝)	1	0	1	1	0
1/04 (木)	0	0	0	1	0
1/05 (金)	47	33	17	24	8
1/06 (土)	87	15	3	3	0
1/07 (日)	37	14	6	7	2
1/08 (月・祝)	96	8	5	14	6
1/09 (火)	846	288	92	211	78
1/10 (水)	88	46	14	32	11
1/11 (木)	460	190	47	86	39
1/12 (金)	505	169	59	112	43
合計	2215	771	244	491	188
1/12以降の日平均	121	81	18	32	12

アクセス制限
解除

1月9日から
視聴数が増加

※2月以降の視聴数は減少傾向にある

■ 好事例調査の方法及び周知・広報の流れ

災害対応eラーニングの好事例を把握し今後の周知等へ活用するため、特にeラーニングの需要が高いと考えられる、職員異動後の4月・出水期前に周知・広報ができるよう、下記のような流れで調査及び周知・広報してはどうか。

□ 活用状況の把握

- ・ 視聴数のログから特徴的な利用をしている自治体を抽出する。
　　<主な抽出条件>
 - ・ ある時期から視聴数が急激に上昇している
 - ・ 災害の発生に応じて視聴されている
 - ・ 内閣府等から周知等を行った直後
- ・ 視聴ログの集計は定期的に行う。
- ・ 災害発生直後は利用状況が捉えられるよう定期的な集計以外に個別に集計。

□ ヒアリング調査の実施、とりまとめ

- ・ 上記で抽出した自治体に対して、電話による聞き取り調査を行う。
- ・ 組織的に活用している事例等の活用好事例となりそうな自治体は、より詳細な調査を行う。
- ・ ヒアリング結果は、毎年度2月末頃にとりまとめを行う。

□ 好事例等の周知・広報

- ・ 上記でとりまとめた活用好事例について、4月を目途にホームページ、事務連絡等を活用して周知・広報する。
- ・ その他、自治体での災害対応eラーニングの周知を促す取組みを検討する。

4. 公開済みテーマの改善、新規コンテンツの作成

●公開済みテーマの改善

- ・ 災害対応eラーニングのコンテンツは、公開から2年以上経過している。
- ・ 受講者の声なども踏まえて、公開済みテーマの見直しを図る必要があるのではないか。アンケートで寄せられた意見は以下のとおり。

■アンケートで寄せられた意見

- ・ 業務の全体像は把握できたが、実際の業務がイメージしにくかった。
- ・ 過去の災害での事例や課題、写真・動画を充実してはどうか。

➡ 対応方針：事例や実務に関するコンテンツの充実化

- ・ 現行のコンテンツを「体系編」とし事例を中心とした「事例編 ※能登半島地震や過去災害等」や実務を紹介する「実践編」のようなコンテンツを拡充してはどうか。
- ・ 本年度の活用好事例調査で特徴的な利用をしていた団体に対して、コンテンツの追加・改善に関する意見を聴取し、結果を踏まえて追加・改善事項を整理する。
- ・ また、災害対応の状況を見ながら令和6年能登半島地震の課題や教訓なども適宜反映させる。

●新規コンテンツの作成

- ・ 本年度で7テーマのうち4テーマを公開。
- ・ 残りの「要配慮者への支援」、「防疫」、「遺体処理」は現在、整備中。

➡ 対応方針：令和6年度リニューアルとあわせた検討

- ・ 既存テーマ以外の「災害時に活動する応援職員等」という目的に適したテーマについて、令和6年度以降の有明の丘研修リニューアルとあわせて検討を進める。
- ・ R6能登半島地震の経験を踏まえて、新規コンテンツを検討する。

今後の災害対応eラーニングの整備計画

